

～初めての首都隊員。活動当初と今に至るまで～

平成元年7月中旬。平成元年度第1次隊5名はグアテマラのアウロラ空港に降り立った。当時、グアテマラには、初代隊員として2隊次前の昭和63年度2次隊の1名、昭和63年度3次隊の3名が地方で活動しており、私たち5名が首都で活動する初めての隊員となった。5名中、精密機器の隊員以外は、野球、水泳、陸上そしてバレーボールのスポーツ隊員。その後、しばらくは、空手、ソフトボール、体操等のスポーツ隊員中心の派遣が続いた。当時の調整員は重量挙げが専門のエルサル隊員OB。体育会の雰囲気漂う事務所であった。

6週間のアンティグア市での現地語学訓練終了後、私と陸上隊員はオリンピック委員会所属コーチとして、他のお雇い外国人コーチと同じ四つ星ホテルを住まいとして活動が始まった。レストランでの朝食・夕食付、ベッド3つ、湯船あり、さらに、ホテル⇄バレーボール専用体育館の送迎付きという待遇。グアテマラ側はJOCVというのがよくわかっていなかったようだが、翌年1月に開催される中米オリンピック(4年に一度の大会)コーチ扱いという事情もあった(中米オリンピック後は、他の隊員同様、ホームステイに変更し、路線バスで移動することにした)。

男子ナショナルチームやそのジュニアチームの指導が中心の2年間の活動終了後、私は順路直行で帰国した。広尾での協力隊事務局で帰国手続き中、グアテマラでの活動を知るJICA職員の方から訓練スタッフ(駒ヶ根)はどうかとの打診があり、駒ヶ根訓練所での仕事が始まった。その4か月後、現所属先であるJOCA(公益社団法人青年海外協力協会)の一員となり、調整員(ホンジュラス)→訓練スタッフ(駒ヶ根)→調整員(ニカラグア)→訓練スタッフ(広尾)と12年ほど訓練と現場を行き来した。その後、JOCA本部で訓練支援のほか、JICA開発教育支援事業やグローバル人材育成事業に関わり、さらに、総務部、国内事業部と続き、現在は、JOCAが業務委託を受けているJICA国際緊急援助隊(JDR)事務局に勤務している。

OB会活動としては、4年ほど前に、有志とともに「バレーボール」OB・OG会を立ち上げた。訓練中の候補者への特別講座、出発前の隊員の日本バレーボール協会への表敬等のほか、バレーボールのオリンピック出場経験者が立ち上げた「バレーボールオリンピックの会」とのコラボによる、「青年海外協力隊×オリンピック×バレーボール」というパネルトーク企画を2年連続で実施した。ミュンヘンオリンピック男子金メダリストの嶋岡さん、モントリオールオリンピック女子金メダリストの吉田さん(旧姓：高柳さん)等、当時テレビで見ていたあこがれの元選手たちとのパネルトークは感慨深いものがあった。

もうすぐ 60 歳になろうとしている。協力隊に参加したこと、グアテマラでの協力隊活動のおかげで、幸運にも今に至るまで協力隊事業を中心に国際協力や国際交流に関わることができた。協力隊には感謝しかない。

今、この瞬間も、世界中で協力隊員が活動している。頑張してほしい。私自身も、30 年前のことではあるが、協力隊で得た精神を今も持ち続けている。まさしく「生涯協力隊」である。

